

議 事 録

1. 会議の名称 池田市 3 R 推進センター指定管理者選定・評価委員会
2. 開催日時 平成 30 年 7 月 25 日（水） 14 時～17 時
3. 開催場所 池田市立コミュニティセンター
4. 出席者 ≪委員≫◎三輪 信哉、上野 浩文、山品 圭一、衛門 昭彦、根津 秀徳
※会長：◎
≪事務局≫池田市環境政策課
課長 島野寛喜、主任主事 國安裕子、主事 中島悠輔

5. 議 題

- (1) 3 R 推進センター指定管理者の評価について
- (2) 3 R 推進センター指定管理者募集要綱について
- (3) 3 R 推進センター指定管理者選定ガイドラインについて

6. 議 事 経 過

◆現指定管理者の評価について

会長：太陽光発電に向けて売上を積み立て市民共同発電所の設置に寄与しているというところが評価シートの中に記載がなかったのだが、これは評価すべきである。

委員：よくやっていると思う。センターに求められる機能の変革期に来ているのかなと思う。今の仕様書では 10 年後に対応できる機能があるのかどうか。世の中のニーズ・消費行動は色々な形で変化していくので、フレキシブルな事業、試行的な、チャレンジな事業をやってみることも次の業務では必要になってくるのかも。今のうちから模索しておかないと、次の 10 年後には時代遅れのリサイクルセンターになってしまう可能性も予感できる。世の中の変化を予測し、リサーチし、試行していく力がこれからの地方の中間支援機能に求められる。本当に多種多様なことが受託団体には求められていて、自分で自分の首を絞めてしまわないように、あえて全ての機能を賄わないという発想も必要なのかなと思う。

委員：3 R というテーマの下でこれだけ色々やっているという実績は当然認めてあげてもいいと思う。よくこれだけアイデアがあるなど。ちょっとだけ言わせてもらおうと、私も時々利用させてもらうが、ここまでやっていることを結局私も分かっていなかったのも、PR 活動がいまひとつ市民の方に浸透していないのかなとも思う。

委員：あえてちょっと厳しい意見を言わしてもらうのであれば「見える化」ができていない。回収して売ってというのはそのままでもいいが、3 R 推進センターの地域における価値とかブランドを市民に定着させる・浸透させるために優先順位を決めて商品を整理するとよいのでは。単なるリサイクルセンターではなくて地域の安全を確保や、最

低限の生活を確保するようとか、社会貢献事業に直結する、こういう中間支援機能としての3R推進センター、そういう取組を次の5年間で池田市の試行として仕様書に入れたらどうか。

会長：知識の豊富な外部委員のような方に依頼して、その方と受託団体が議論をされて課題を整理したらこれまで積みあげてこられた経験や知識が生かされさらに展開するのではないか。

委員：相互参照の機会、たとえば勉強会とか文化会とか、そういうもので多くの方とコミュニケーションをとれる機会を作為的に作っていくとよいのでは。

会長：今の取組も素晴らしいが、もう一段進化するというのが問われているような気がする。

委員：若い人に対してはニーズとかデザインを意識すると、コミュニケーションがスムーズかもしれない。そういう人のキーワードには「シェア」「ブランド」「ストーリー」等があり、それらをシェアしていくというのが今の若い人たちには関心があると感じている。

会長：大阪はやはり「しゃべくり」と「チャレンジ精神」、この二つの気性が特有のものなので、それを生かして、センターがいろんな方のいろんな意見交換の場になっているかどうかがとても重要ではないか。

委員：報告書の数字にも見られるように流れは変わってきていて、センターが担うべき部分が若干変わってきていると思う。販売スペースを減らすなりして、展示だけで勉強できる部分を増やすということも手。SDGsに近い思考を持った団体なので、そのあたりを次回の提案に入れるというふうに評価したら、次は変わったものができる期待が持てる。

委員：基本的には受託団体が自立していけるような仕組作りが必要。現実的に給料が払えないとなれば成り立っていかないということもあるので、そういう現実的なものも踏まえながら仕様書づくりをしていく必要がある。なかなかPRができていないというのも課題。

会長：地域で持っている潜在的な使命などを考え、変わっていくための努力を怠らずに頑張っていたきたい。

◆指定管理者募集要項について

委員：事業計画書に記載すべき事項の項目に追記するとすれば、例えば「環境にやさしい社会の取組事例の創出」。事例の創出は学校の先生にはできないので有用だと思う。仕様書の「指定管理者として特色のある独自の事業」については、その取組の有用性が明らかになったかどうかで査定するとよい。

会長：事業計画書に記載すべき事項にESDとかSDGsなどの語句を入れるかどうか判断が難しいがいかかが。

委員：SDGsは企業にとってはとても重要で、何らかの形で市もSDGsを推進すべきだろう。

委員：学校など、他との連携を考えるのも重要。

委員：最近の災害などでも、地域に中間支援機能があるかないとでは補完しあう力に違いがあることが明らかになってきている。3R推進センターも、日常時は3Rの推進、非日常の際は安心・安全の推進、とすれば自治体の支援機能の一つとして活用できる。

会長：公益活動促進協議会など、横の組織との連携を強化するのも有用である。

委員：災害時のパトロールなどは市職員だけでは限界がある。地域力がものを言う。

◆候補者選定ガイドラインについて

事務局：市全体の動きとしては、価格審査の配点を見直し、価格審査の配点を下げて提案内容重視としたところ。

会長：これまでの議論で評価のイメージも変わってきたと思う。特に「事業実施に関する事項」の内容については変更が必要かと思われる。

委員：価格審査についてだが、「市の積算を超える場合は失格」となっているが、これは具体的にいうと、現予算を超えた見積もりでは失格ということか。

事務局：現予算は単なる例示である。提案によって請負金額は変わるので、市が示しているのは、毎月均等払いをするということだけである。

7. 公開・非公開の別 公開

8. 傍聴者数 0名

9. 問い合わせ先 池田市環境部環境政策課

(072) 752-1111 (内線 377)

(072) 754-6242 (ダイヤルイン)

E-mail kankyo@city.ikeda.osaka.jp